

# ミャンマー僧になり

## 戦没者慰霊を続けた父

歩兵第168聯隊慰霊世話人代表

藤原 淑子

まえがき



昨秋（2023年）10月、ビルマ作戦協会BCS.:日英和解促進会）と共に大東亜戦争時のビルマで戦った元英国退役軍人、リチャード・デイス（97歳）が来日され、日本各地で戦没者慰霊碑に参拝されました。千鳥ヶ淵戦没者墓苑では在日英国およびNZ大使と各国大使館武官も参列され、国際慰霊祭が執り行われました。また保土谷旧連合国墓地にも参列、その後、山形の乗慶寺（コヒマ戦で戦われた佐藤幸徳氏ゆかりの寺）、そして京都霊山観音の歩兵168聯隊慰霊祭にも参列ください、各地で日英和解交流が行われました。その訪日に先駆けた歓迎式典にて偕行社様とのご縁を頂き、この度、物故者遺族の立場ながら『偕行』に寄稿させて頂きました事、改めて感謝申し上げます。

### ビルマ戦の概況

今年には戦後79年を迎えます。ご存じの通り、大東亜戦争全体で日本軍は240万人の尊い命を失いました。中でもビルマ戦線では日本兵は19万2735名の方が戦火に倒れ散華されました。もちろん相手国・連合軍側でも多大の犠牲者を出し、戦場となったインパール（インド）、そしてミャンマーに及んでは、日本軍を超えるとも言われる甚大なる犠牲者を出した事を私達は忘れてはなりません。

「ジャワの極楽・ビルマの地獄・生きて帰れぬニューギニア」と当時例えられたビルマ戦争です。

食糧や武器弾薬は困難な地形から十分な補給がなく、川幅600メートルに及ぶチンドウイン川を渡りきれず、馬や武器の多くを流されました。アミーバ赤痢やマラリアに苦しみながら、幾重にも連なる2000メートル級のアラカン山脈を武器や大砲を解体して人力で越え、インパールやコヒマを目指した想像を絶する作戦でした。インパール突入直前に撤退を余儀なくされ、再びアラカン山脈と濁

流のチンドウイン川を戻り、戦闘よりも撤退時に力尽きて亡くなった将兵の多さに驚きます。そして、更なるイラワジ・メイクテイラー会戦に突入し、連合軍の総攻撃を受け幾つもの白骨街道を作りながら壊滅的被害を生んだとされる事実を戦史から学びました。インパール以外にも、アキャブ作戦・ミートキーナ（Myittha）の戦い・イラワジ・メイクテイラー戦ほかインパール作戦を超える犠牲者を出した多数の作戦があった事は、世間には余り知られておりません。

### ビルマ戦争の各作戦 (3年8カ月、32万人)

- ① 1941年日本軍ビルマ全土攻略
- ② 1942年北伐作戦
- ③ 1943年フーゴン谷地の戦い
- ④ 1944年2月第2次アキャブ作戦
- ⑤ 1944年3月インパール作戦
- ⑥ 1944年3月コヒマ占領
- ⑦ 1944年5月ミートキーナの戦い
- ⑧ 1944年7月断作戦
- ⑨ 1945年1月盤作戦
- ⑩ 1945年2月克作戦
- ⑪ 1945年3月ラングーン攻防戦
- ⑫ 1945年6月堅作戦
- ⑬ 1945年7月シッタン作戦



【上図：「ビルマ戦争の各作戦（筆者作成に加筆）」。左表「部隊区分」】

陸軍	司令部・直轄部隊
ビルマ方面軍(第)	20(第)
	49D(娘)
	53D(安)
	24MBs(殿)
	105MBs(殿威)
第15軍(林)	司令部・直轄部隊
	150(察)
	31D(烈) 33D(弓)
第28軍(第)	司令部・直轄部隊
	54D(兵)
	55D(壮) 72MBs(貴威)
第33軍(第)	司令部・直轄部隊
	18D(菊)
	56D(電) 5FD(高)

### 時代背景 軍人教育

戦後生まれの私は、父から戦争の話聞きながら育ちました。ずっと戦争が続いた時代が日本にもあった事は遠い話のようでした。

当時、軍人として「尊皇と国体の護持」の精神訓話の思想教育が徹底され「国の為に戦う・陛下の為に死ぬ」と教育され、「軍人勅諭」（忠節・礼儀・武勇・信義・質素）を重んじたそりでした。

33軍56師団（龍兵団）野砲兵拉孟守備隊木下昌巳中将の証言に、「当時の陸軍士官学校での教育は3年間で実習演習したのは、たった10回のみでそれ以外は思想教育だった」と歴史研究家の取材記録から知りました。日本国を守るために国民全員が一丸となつて戦われた時代です。今の

日本の平和は戦争の犠牲の上に成り立ち、多くの方の知恵とご尽力により守り継がれたことに感謝いたしております。

### 父今里淑郎の紹介と所属部隊



私の父は今里淑郎と申します。1943年(昭和18)、21歳で兵庫県の篠山歩兵第168聯隊に入隊。

幹部候補生試験に合格するも体力弱小の為、将校不適となり下士官で教育指導の任務に就いておりました。しかし急遽通信隊に欠員ができたという事で、通信中隊無線通信第7分隊長(軍曹)



として戦況が悪化してからのビルマへ派遣されました。「インパール救援部隊」として「ビルマ方面軍49師団歩兵第168聯隊通信隊」に所属し、メイクテイラー

「写真」上「昭和19年12月」、下「同年2月」

に急進した先陣隊400名の中の一つた2人の生き残りです。

父の口癖は「生かされた命は戦没者慰霊をするためだ」と言い続け、ビルマ上座僧の資格を得てミャンマーおよび国内にて生涯戦没者慰霊に努めました。

【写真右から】「入隊時の父21歳」「聯隊営門」「営門跡地に、歩兵第168聯隊発祥の地」の碑(丹波篠山市)】

### 49師団狼兵団歩兵第168聯隊の戦歴



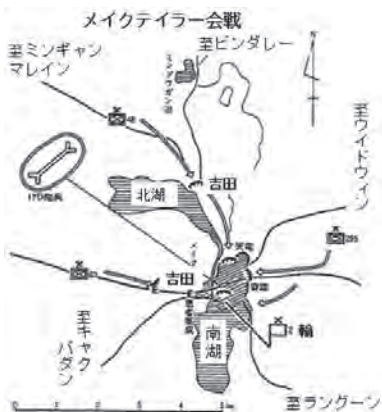
49師団(狼兵団)・竹原三郎師団長

歩兵第168聯隊は、吉田四郎聯隊長【写真】率いる「インパール救援部隊」として雲南戦(断作戦)で33軍配属2師団勇兵団の配属を命じられ、(1944年9月)その後竜兵団にも付き竜陵解囲、拉猛・騰越

平憂救出作戦に参戦。その後ワンチン陣地構築、また18師団菊兵団の「助っ人兵団」として隷下につき、バーモ救出作戦に参加。救出は成功し、歩兵第168聯隊は「感状」を2度拝受しました。



第168聯隊は精強な部隊であつたそうです。父の部屋にはバーモ作戦にて49師団168聯隊通信中隊今里分隊と部隊名が書かれた「感状」が厚重な額入り飾ってありました。その当時は物ではなく、名譽を与えられることが兵士にとり何よりの大きな喜びであり、精神的にも士氣を高め、支えられたと言っております。



メイクテイラー会戦(盤作戦)上図「イラワジ会戦」(陸戦史研究普及会編)引用)ではメイミョウ到着時にビルマ方面軍直属原隊に戻り、「メイクテイラーに急進せよ」との緊急命令を受け、吉田聯隊長と共に父は「先発隊400名」として、武器や通信機器も後で送るという指示のもと急進。歩兵第1、第2大隊が戦局激変したメイクテイラー(メイクテイラー Meiktila 日本軍の兵站基地あり)へ向かいました(1945年2月27日到着)。急進命令を受けた時点では連合軍の戦車は数十両との情報を受け現地に向かうも、英印軍2000名にその後戦車・自動貨車は約2000両との情報に変わっていたといえます。

日本軍は約4・4万人で戦闘部隊らしき部隊もなく、同地守備隊長粕谷少将より聯隊は唯一の戦闘部隊として最前線の守備を命じられました。

既に英軍14万人、戦車、自動貨車に増強され巨大な米製のM4中戦車を先頭に攻撃してきました。また敵機の爆撃も激しく重砲火、戦車の猛烈な砲撃を受け包囲され総攻撃を仕掛けられるに対し、第168聯隊先発隊は後続部隊未到着のまま、武器

弾薬も届かず対戦車火器もないまま、歩兵による肉薄攻撃（対戦車地雷や爆薬を背負い敵戦車に飛び込む）が随所で行われました。

第168聯隊先発隊は、英軍に対し火砲の直接照準射撃にて応戦するも、圧倒的な兵力と物量の差は歴然でした。メイクテイラー湖畔で多数の部隊が壊滅的損害を受け、3月2日敵戦車は聯隊長の壕に迫り75mm砲弾多数を撃ち込み第168聯隊の吉田聯隊長以下泉少佐、茶戸中尉、錦戸少尉を始め先発隊はほぼ全滅、戦場となった湖西地区一帯は凄惨そのものでした。

メイクテイラー防衛戦全体では1万9500人を亡くす惨敗となったのです。（1945年3月1〜3日）（96歳ビルマ戦線の証言より。45ページ）

父は、メイクテイラーに急進した先発隊400名の内、たった2人の生き残りとなりました。銃弾を受けながらも生き残ったもう一人も部下の通信兵でした。メイクテイラー湖の近傍にある「トラボトラキョン寺院」―「シユエチャン寺院」内には、壊滅的被害を受けた各部隊の慰霊碑が多数建立されており、「歩兵第



50回忌法要：現地ウーモンゴ氏同席（1994年2月11日）

168聯隊慰霊碑」も通信隊により建立されました（1978年2月）。

碑文には、「マンダレーイラワジ戦で2万人、ミッドキーナ戦2.8万人、インパール撤退にて1.8万人、既に犠牲を出し続けて戦力低下の日本軍でした。その後、後方部隊到着せぬまま、戦力低下しながら、小部隊に分断されるも士気旺盛に死闘した」と書かれています。

メイクテイラーの日本軍が攻撃において、タ弾<sup>たんだん</sup>という対戦車用の新兵器が使われたかどうか未確認ですが、3月7日にウエトレット村でタ弾で交戦したことが、49師団山砲第3中隊長中村清一氏の証言を取材された遠藤美幸氏の著書『悼む人』（96〜97ページより引用）に記され

ております。



ウエトレット慰霊祭に参加（2020年3月7日）

した。毎年3月7日に現地のウエモン氏を中心に村人により日本人戦没者の慰霊祭を開催されていると聞き、私は2020年にウエトレット村の慰霊祭に中村清一様の遺族と一緒に参列しました。帰国時にはコロナでフライト便が困難となっていた時期でした。

その後第168聯隊は、1945年8月、チャウチドインにおいて終戦命令を受け軍旗・重要書類を焼却。10月28日武装解除。10月末、捕虜となった日本兵は各班に分かれ、モパリン作業班180名は道路整備につき9カ月間従事。1946年6月末モールメン港より帰路乗船をした。モパリン作業班は7月13日広島大竹港に到着。感激のあまり皆腰が抜け歩けないほどの喜びだったと聞きました。父は入隊時軍曹であったが「感状」を受け2階級特進で、少尉で終戦となりました。

そして父はその後結婚して第一子を授かる（1958年3月24日生）ものの、へその緒から細菌が入り4月9日に他界。その子は16日間の命でした。痛みを苦しむ赤子の顔が戦友と重なり、「戦没者慰霊をして」と懇願しているかのように思い、戦

没者慰霊に熱意を傾け僧籍を目指した理由の一つでしょう。

父は戦後70年特集のTV取材で語った言葉に、「弾を送る為には食糧は送れないと出発の時に分隊長から聞いていました」と語りながらも「実際は食糧どころか武器弾薬の補給も一切送られてくることは我が隊にはなかった」と、無謀な戦況を証言いたしました。

## 慰霊碑建立

①168聯隊慰霊碑（メイクテイラー）  
1977年2月（33回忌法要）時にミャンマー慰霊を歩兵第168聯隊の戦友有志を始め、翌年1978年2月11日、メイクテイラーのシユエチャン寺院内に第168聯隊慰霊碑を建立しました。

ビルマ全土の各地には、当時戦友会組織が全盛であり多数の慰霊碑が戦闘地域に建立されました。戦友の高齢化が徐々に進み、維持管理がしやすいヤングゴンの日本人墓地に一極集中させようと、各地の慰霊碑の抜魂式を行い、歩兵第168聯隊も2008年2月メイクテイラー慰霊碑の抜魂式慰霊を行ないました。



北オカラップパに「ヤングゴン日本人墓地」が日本政府により完成。【写真：当時のヤングゴン日本人墓地】旧タモエ、チャンドウ墓地の石碑も移転させ、戦没者慰

日本遺族会様によれば、時代経過とともに、放置されたままの慰霊碑も多くなり、現地住民の方々から撤去を求められる事態もあるそうです。

その際はご遺族を探し同意書を受領後、部隊プレートなどは日本人墓地に集約するなど適切な対応いただいていると伺いました。いずれも厚生省の指導のもと、遺骨収集と慰霊碑管理の対応にご尽力頂いている事を学びました。

ただメイクテイラーの寺院内にある第168聯隊慰霊碑はまだ保持されております。ウーニヤーニサラ高僧に意向を確認した際、そのまま残し定期的に参拝の上、管理費を奉納する形を希望されております。現在は私が管理者となり定期訪問し保持継承に努めております。

## ②ヤングゴン日本人墓地建立



恩讐を越え、戦友同士が共に戦没者慰霊を行い、戦争和解「昨日の敵は今日の友」このスローガンのもと、素晴らしい慰霊祭となりました。

霊式典は盛大に行われました。後に、ヤングゴンの日本人墓地の中央の慰霊塔は政府により建立されましたが、墓地造園は全国の戦友会や遺族からの浄財を集め整備されました。その資金を全国戦友会や遺族の皆様から集められ奔走したのは、ワコールの塚本氏と父今里淑郎であつたと全ビルマ会の上原嘉光会長より伺いました。

## 昨日の敵は今日の友

1999年2月8日、ヤングゴン日本人墓地建立式典には日本から戦友会・遺族関係者約300名参加されたが、なんと敵国だった連合軍の元退役軍人で戦争和解活動を進めておられた「英国作戦同志（BCFG）」の戦車隊長（ジョン・ナネリー氏、フィリップ・メイリン氏）ほか17名もご参加を頂いたのです。敵味方の

BCFGの2名と日本側の世話役と写した写真を父はとても大切に保管していました。【写真参照：右端が父】

冒頭に表記した昨秋来日の際のビルマ作戦協会（BCS）マクドナルド昭子会長の前身団体がBCFGです。32年の時を超え、父の大切にした写真の後継団体と私が巡り会い、この度の慰霊活動を共にできた奇跡に感謝いたします。

僧侶になろうとヤングゴンで誓い合った約束とは — 1999・2・8 — ヤングゴン日本人墓地建立慰霊祭世話役だった10名の元将校は大きな決意と約束を固めました。それはこの10名で戦没者慰霊をするために「ビルマの竖琴のようにミャンマー上座僧の資格を取り全員で戦没者慰霊をしよう」と誓い合ったのです。しかしそれは1年2年で素人が到底取得できるものではないと知り、一時は皆が諦めかけた事もあったとか。

父は永年在家修行を続け導師の資格をとり法名（戒名）をつけ、自宅祭壇を作り我が「歩兵168聯隊の戦没者1000名の法名つけ」をし、毎朝戦友のご供養をしていました。

しかし、ミャンマー僧になるには準備として瞑想ができることが必須です。父はミャンマー僧になるための下準備を7年がかりでヨーガ原流天風式座禪をマスターし、座禪のイロハから入り瞑想の所作も学び準備を整えた頃、約束し合った10名の世話人の皆様は全員他界され、気が付けば最後の一人が父だったそうです。

毎年7月高野山成福院様でビルマ戦没者慰霊祭が盛大に行われます。ある年、祭典委員長だった父はミャンマー大使を招待し、大使より「ビルマ僧籍を取得する修行は通常1ヵ月ほどかかるが、瞑想ができれば1週間程度でも取得の道はある」とアドバイスを頂いたとのことでした。なんとしても挑戦すると覚悟を決め、2006年2月に奮起し84歳での挑戦となりました。いつもミャンマー慰霊に同行を依頼している通訊のキンマウンタン氏に特別お願いし、私を含めて3名でモービー市にある瞑想寺院「チェンメイイエタ僧院」の門をたたきました。

ヤンゴンから60キ離れ、木々に囲まれ小鳥のさえずりだけが聞こえる静かな瞑想寺院です。日本からビルマ僧籍の修行に挑戦をする父を歓迎

下さり、高僧みずから剃刀を持ち、「ウテイアンピー〜ブツダハマ〜サラナム〜」サンスクリット語のお題目を唱えながら、ゆっくりと父の頭を丸坊主に仕上げている、いかれました。「髪一本も飾り物。すべてを捨てること。無になることが修行の始まり」

男性と女性の修行場は左右に分かれ早々に仏衣に着替えます。もちろんテレビ・ラジオもなく外界から一切遮断された世界です。諸事の作法を教わり仏界に入る儀式も終え、蚊帳がつけられた簡易な木製ベッドとトイレがあるだけの、バンガロー風個室が与えられ修行が始まりました。朝3時半起床し瞑想、食事は朝6時と昼11時の2回のみ。その後は一切口にせず瞑想修行を行います。当然、女性の私は、ヤンゴン市内のホテルから毎日通い、食事の時に無言での付き添いが許されました。しかし父に触れることはできません。ミャンマーでは僧侶の身分地位は高く、仏教徒としてミャンマーの男性は2度出家する（子供の頃1度目、18歳以上2度目）、「修行を積み現世への執着を捨てること。誰にもブツダの道が開かれている」得度式に出るとミャンマー人も大変ご利益があるか

らと会社を休んで駆けつけてくれた友人もいました。



【右上「上座僧の試験審査中」。右下「上座僧に合格し祝福を受ける父」

私は制限の範囲内で毎日ヤンゴン市内から通い、1日2回の食事時に面会を許され仏門の修行中の父に会いました。永年ミャンマー慰霊で親交を深めたSuzette女士も彼女の

お母様が得度したご縁の僧院だと駆けつけてくれました。私はお金で寄付しましたが、彼女は毎日僧院のお坊様に100名分の食事や果物、菓子など寄付して熱心に応援下さり感謝でした。本来なら誰にも黙って

ミャンマーで挑戦する計画でしたが、永年の現地の友人達に助けられました。更に、不思議な事に、昔から高野山のビルマ慰霊祭で深い交流のあった高野山成福院ご住職、仲下瑞法大僧正がミャンマーに来ておら

れ、私が宿泊していたホテルで偶然ご住職にお目にかかり、父の僧籍挑戦をお知らせしますと帰国を延期して、急ぎ父の元に駆けつけ、得度式に臨席下さいました。そして父の得度する推薦人になって下さるなど、

本当に時空を超えた皆様のお力がどんどん集まり、見えない糸ですべて繋がりが合うといった奇跡を私はそばで見届けることができました。お陰

様で父の得度式の一連の修行のすべでもビデオ記録に収める事ができました。今まで誰もなしえなかった「ビルマ上座僧」の資格取得が叶い、ご英霊のご加護と感謝し、多くの皆様のお力をいただき達成できたと思っております。

2006年2月21日午前8時35分、ビルマ上座僧名「ASHEN JINAVANSA (アシンジナボンサ) 84歳が誕生。

ビルマ僧名が頂けました。これまでも何人もの方々がビルマ僧に挑戦されていますが、皆一般僧で終わられていると聞き、外国人で3人目、日本人は初めてとのことでした。モービー市のチェンメイ、イエタ僧院には今も黄金色の袈裟を着た上座僧に認定された父の写真が飾られています。



右から二番目が上座僧になつた父。右端は筆者

### 父から慰霊巡拝を引き継いだ娘(私)

私は、父の戦没者慰霊への想いが他の誰よりも熱く、半端ではないことをずっと肌で感じており、父と1991年より約33年近く、メイクテイラー(部隊壊滅の地)を遺族の方々と共に何度も慰霊地巡礼をし父の下で慰霊秘書として、いつも同行していた娘でした。

さらに父の他界後の2019年11月に未踏のインパールヤトンへ(15師団第2野戦病院跡地)を訪れることができました。

ミャンマーの西北部サガイン州にある少数民族地域は政情不安のため永年外国人入域が禁止されていた地で同年8月解除されました。そこでホマリンからチンドウイン川を下り、トンへを訪れ、義祖父の慰霊参拝を

した後、ミャンマー側から陸路で、タム経由でそこは麻薬密売ルートでもあったため何度も検問を受けながら、アラカン山脈を越え、インドマニプル州のインパールに入りまし(2018年8月、外国人入域許可・現在は未確認)。

15師団の京都の祭兵団のインパール行軍ルートに近いルートです。私達(夫と二人)は乾季のチンドウイン川を渡り(雨季は船路閉鎖で現地の方も移動手段なし)戦時中の兵士の方々が雨季のすさまじい豪雨の中、何万という方が渡河しきれず流され、また水葬された川だけに、川を下ることに内心大変な勇氣と覚悟が必要でした。私は戦没者の方々に感謝の念を唱えながら、1時間半かけてホマリンからトンへ村まで筏風の船で乾季だから下ることが出来ました。机上でどんなに戦史を読んでもその文字だけでは理解できなかったことを、現地地形を歩きこの川を下るといふ体験から多くを学びました。さらに補給もなく、飢えと病に侵された状況で、雨季の凄まじい濁流を渡河する勇兵の方々にとり、いかに過酷だったのかを肌で感じ私にとり衝撃のビルマ戦争追体験

となつたのです。地獄のビルマ戦の一端に触れた気がしました。

●ヤンゴン日本人墓地に全ビルマ会の上原会長の許可を頂きご支援のもと、父の念願だった「第168聯隊の記念植樹」をさせて頂き、木の根元に吉田聯隊長以下部隊戦没者全員の名簿を薄い和紙に縮小コピーして埋葬致しました。参拝者が和んで下さるようにと、赤いプルメリアを植樹することが出来ました(2018年12月1日)。

ヤンゴン日本人墓地の管理人様の手入れのお陰で毎年赤い可愛い花が咲いております。



【上「ヤンゴン日本人墓地」、下「第168聯隊慰霊植樹した赤いプルメリア」】

●マレーシア慰霊巡礼コタバル 2023年6月にマレーシアのコ

タバルやシンガポールを訪れ、その地からミャンマーに入られた部隊の戦地コタバル上陸地の海岸で慰霊を行いました。第18師団の菊兵団の歩兵第55・56聯隊の戦地となりその後シンガポールを経てビルマ戦に進軍され、雲南戦場にて父の第168聯隊と共に戦つた部隊です。ミャンマー慰霊に行けないので、マレーシア・コタバルほかとシンガポール各地で戦没者を慰霊することが出来この目で戦場とトーチカが何かを学べました。

### ●ビルマ作戦協会来日

2023年10月15日、前述のビルマ作戦協会が来日され、元連合軍の兵士リチャード・デイ氏を迎え京都霊山観音にて歩兵第168聯隊の慰霊祭「参列下さり、京都祭兵団歩兵第60聯隊のご遺族とご一緒に日英合同和解の慰霊祭と懇親会席上で全員握手交流ができました事、お礼申し



上げます。

【上】ビルマ作戦協会の皆様が千鳥ヶ淵戦没者墓苑に献花、下「京都霊山観音様での歩兵第168聯隊の慰霊祭」

父が1999年2月8日にヤングン日本人墓地慰霊祭で日英和解が戦友同士で実現できたこと、そして昨秋に二世の私どもが千鳥ヶ淵戦没者墓苑と京都の霊山観音様にて日英戦没者の慰霊祭で交流できたこと、ご英霊に深く感謝申し上げます。

父からの後世へのメッセージ

今里淑郎96歳（2018年3月1日他界。この日と翌日はメイクテイラー会戦で部隊壊滅した日）。

「一言ご挨拶を申し上げます。戦後七十余年が流れますとほとんどの人に戦争は遠い昔話のような感じになっております。私は戦争を賛美し肯定するものではありませんが、戦争体験者として、歴史の事実として、日本人として、当時二十歳そこそこの若者たちが生命を捧げ守ろうとしたものが何であったか、正しく理解し今もなおビルマの荒野に己の生命の価値を問い続けているものが、横たわっている事を忘れないでほしい

のです。ありがとうございます」

最後に

今後、引き続き、二世の視点で戦没者慰霊を含め後世に戦争を語り継ぐ活動や、インパールやメイクテイラーの激戦地を訪れ、昨夏にはマレーシアのコタバル慰霊にも足を運び慰霊巡拝をさせて頂きました。

今となつてはミャンマー渡航が厳しい現況、インパール訪問の紀行著書がお陰様で貴重だと喜ばれております。最近ビルマ戦の部隊編成や現地の様子を知る一人として慰霊祭にて遺族相談を受けることも多くなり、ご遺族と共に戦史を調べ学びながら、進めております。例年7月の高野山成福院様でのビルマ戦没者慰霊祭をはじめ、原隊である丹波篠山市の戦没者追悼式、霊山観音の慰霊法要など、各慰霊祭に参列させて頂きながら、まだまだ未熟ながら世話人として活動しております。ビルマの戦地を生き抜いた父や先陣の皆様

の想いを大切に、証言をもとに、残された記録から正しく戦史を学び戦跡巡礼の体験もより多くの皆様に伝承できればと願っております。

世界中から一日も早く戦争犠牲者が

なくなり平穏な日々が送れる日が来ることを切に願いつ、戦闘に従事された勇兵の皆様方のご冥福を祈ります。

ありがとうございます。



【写真：右上「高野山成福院様でのビルマ戦没者慰霊祭世話人」、右下「丹波篠山戦没者追悼式」、左上「千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭」、左下「ヤングン連合軍兵士の墓地 (Hkamti Kyant War Memorial Cemetery)】

【著書の紹介】



『インパール作戦・イラワジ・メイクテイラー会戦の地へ 戦没者慰霊の旅』（藤原淑子著）千鳥ヶ淵戦没者墓奉仕会に、推薦図書として取り扱っています。

戦後占領政策と日本の現在 (1) われわれは、これにどう向き合うべきか  
教育問題委員会

はじめに  
教育問題委員会は、前身である教育問題PTの頃から、文科省の学習指導要領の改正に伴う道徳教育の開始の時期に合わせて、青少年がロール・モデル（お手本）とするに適した、旧軍人の言動を研究し、伝記風に記述し『偕行』に連載して参りました。日本陸軍軍人を主体とするその足跡を追うシリーズは、30回を数えます。いささかなりとも、日本軍人の徳操について、皆様にご紹介できたと自